

地震災害への備えと対応

令和2年度

甲府市立善誘館小学校

平成23年3月11日、東北地方を国内観測史上最大のM9.0の大地震と大津波が襲いました。平成28年4月14日、熊本地震では震度7という揺れにより、多くの尊い命が奪われました。大津波、地震、原発事故が発生し、様々な災害で多くの尊い人命が失われました。想定をはるかに超えた甚大な災害、今、自然災害に対して日頃から備えが必要です。どうやって命を守り、そのために、どんな力を付けていけばよいのか考えていかなければなりません。本県でも、現在予測されている東海沖地震は、ここ30年以内で巨大地震の発生確率が87%と非常に高い確率と言われています。地震発生時等における災害避難・安全確保等の対策についての情報の共有は非常に大切です。現代社会においては、インターネットや地域防災のマニュアル等を積極的に活用し、平時より話し合い確認しておくことが、何よりの対策になると思います。

校長 望月 正紀

危険を予測・回避し、判断する力を養う

「命を守る」それは、どんな場所においても自ら「安全な場所」を判断し確保することです。自らの命を守るからこそ、避難の一步（第1次避難）です。普段からその判断力、行動力を培っておくことが大切です。

安全な場所とは

「上から物が落ちてこない場所」 「横から物が倒れてこない場所」

学校で

情報の共有

家庭で

地震規模	学校で起きた場合	登下校中の場合	家庭で起きた場合	家庭での約束
震度5弱以上 大規模地震時	安全な場所（机の下等）に。その後校庭等に避難待機。情報収集の状況によっては、全ての活動を停止し学校で待機。下校経路等安全状況を確認後、（原則）保護者への引き渡し。	安全な場所へ避難。 （時間や場所に応じて、近所、家、学校、地域避難場所へ。とにかく安全な場所を探す。（判断力が必要）	家庭で一番安全な場所へ避難する。 余震に注意し、慌てず状況把握をし、避難場所への避難か判断する。（家庭の約束を）	★ 震災の準備品と保管場所を確認。 ★ 各部屋に「緊急場所」を確保する。（丈夫な机（テーブル）、ベッドの下等）＝自ら命を守るということ。 ★ 家具等が倒れないように壁等に固定する。 ★ 災害時には「ここに集合」等家族で確認しておく。 ★ 災害時の家庭での連絡体制をとっておく。災害伝言ダイヤルの活用等。
震度4以下 地震時	安全な場所（机の下等）に。その後校庭避難待機。学校の状況に応じて対応を決定する。通信手段のない場合は、原則児童は学校に留め置き、保護者・代理人への引き渡しをする。通信手段のある場合は、決定した措置について家庭へ連絡する。	安全な場所へ避難。 余震に気をつけ、状況により、自宅または学校へ移動。	家庭で一番安全な場所へ避難する。情報収集に心掛け2次災害に注意。	

災害状況に応じ→継続して学校が避難場所になる場合、また被災場所により地区避難場所等へ避難することもあります

地域での避難場所を確認しておこう

私の避難場所は

地震災害に備えておくもの

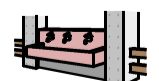
飲料水 メモ帳・ペン 着替え 携帯ラジオ ビニール袋 ブルーシート 使い捨てカイロ タオル
 ろうそく カセットコンロ（炊き出し用） 軍手 常備薬 ティッシュ ボンベ 毛布 生理用品
 レインコート ホイッスル サランラップ（包帯代わりになる） ライター 保険証 コピー
 携帯電話（充電器） 非常食（保存食・缶詰等） 給水袋 通帳控え お金 電池 懐中電灯
 母子手帳・離乳食等 ポリバケツ トイレ用紙 トイレ 携帯トイレ その他家庭に必要なもの

※ 家庭で備えておくものをもう一度確認しましょう

「災害は忘れた頃にやってくる！」

善誘館小学校

電話番号 055-233-4809



★ 災害時の情報等は、甲府市防災無線・テレビ・ラジオ、インターネットを参考にしたりすることもあります。的確な状況判断を総合的に冷静に行えるように学校、家庭で協力していきましょう。